

第 14 期 第 3 回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事録

【日 時】	令和 7 年(2025 年)8 月 22 日(金)14 時 00 分から 15 時 10 分まで
【場 所】	庄内コラボセンター ショコラ 4 階 多目的室 1
【出席委員】	小島委員 花嶋委員 石村委員 眞先委員 三谷委員 下村委員 高島委員 北山委員 榊原委員 高井委員 吉田委員 和佐委員 村田委員 竹之内委員 (15 名中 14 名出席：有効に成立) ____は、WEB 参加
【傍 聴 者】	0 名
【事 務 局】	藤家、片羽、小林、永富、吉村、渡邊、小川、田中、内田、鈴木、坂口、三島、 三浦、小田、中村、大井、インターンシップ生（藤岡、上別府）
【配 付 資 料】	・第 14 期第 3 回豊中市廃棄物減量等推進審議会（WEB 会議）議事次第 ・第 14 期第 3 回豊中市廃棄物減量等推進審議会タイムテーブル ・第 14 期廃棄物減量等推進審議会委員名簿 ・資料 1 一般廃棄物の減量の促進及び適正処理に関する事項等について（諮問） ・資料 2 令和 7 年度第 14 期豊中市廃棄物減量等推進審議会審議日程について ・資料 3-1 第 4 次豊中市ごみ減量計画の進行管理について ・資料 3-2 令和 6 年度事業等報告書 速報版 ・参考資料 食品ロス 1 人 1 日あたり量について

- 開会宣言

審議会は情報公開条例に基づき、公開の対象となるが、本日は傍聴希望者なし。

委員 15 名の内、14 名が出席のため過半数に達しており、審議会規則第 6 条により本日の会議は有効に成立している。

- 部長あいさつ

- 委員紹介

事務局より資料に沿って説明

- 諮問

意見を求める内容

「第 4 次豊中市ごみ減量計画」の進行管理について

・令和 6 年度（2024 年度）事業等報告書について

- 審議会の進め方について

事務局より資料に沿って説明

1. 第 4 次豊中市ごみ減量計画の進行管理について

○会長

それでは、第 4 次豊中市ごみ減量計画の進行管理について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

＜資料 3-1、資料 3-2、参考資料に沿って説明＞

○会長

内容が多岐にわたるので、ごみ減量目標に対する進捗状況の内容について P.2～P.3 についてご意見を伺いたい。

○委員

ごみ減量のために市民が行動の変化をしたいと考えたときに、手引きのようなものがあると行動を起こしやすい。食品ロスゼロハンドブックがあるが、インターネット環境があれば、PDF 版で見ることが出来るので、QR コードを付けて参加しようと思う方が、参加しやすいようにしてもらえたらと思う。

また、日本航空の、「すてる油で空を飛ばう」というプロジェクトについて、豊中市は廃食油の SAF 化について協定を結び廃食油の回収を行っているが、市のホームページを見ても飛行機を飛ばせるほどは集まっていないようであるので、廃食油の回収についても力を入れ、市民の力で廃食油がもっと集められるようにしていただきたい。

○事務局

食品ロスガイドブックの QRコードについて、資料のボリュームの関係もあるので、掲載できるかどうか検討したい。廃食油の回収について、市も周知啓発に力を入れていきたいと考えている、広報物等を活用して、広く周知をしていきたいと考えている。

○委員

1 ページの個別目標に食品ロス 1 人 1 日あたり量というものがあるが、平成 12 年度の数値が出ているがかなり古いものであるのはなぜか。また、3 ページのリサイクル率について、紙、布のリサイクル率なのか缶のリサイクル率なのか。

○事務局

食品ロス 1 人 1 日あたり量の個別目標については、第 4 次豊中市一般廃棄物処理基本計画に記載している基準年度の数値として、平成 12 年度の数値を掲載している。

リサイクル率については、紙、布だけではなく、缶、ビン、ペットボトル、プラスチック製容器包装、小型家電等、全ての再資源化物を含めた値となっている。可燃物、不燃物以外のものをご認識いただきたい。

○会長

ほかに、審議会からの評価案の内容など、審議会からのメッセージとして発表していく形となるので、そういった視点でご審議をいただければと思う。

○委員

審議会からの評価案に関して、家庭系ごみの排出量について、「物価の高騰による個人消費の抑制」が最初に記載されている。「市民が努力したことで、ごみ減量につながった」という事が一切感じられなくなってし

まい、ただただ、市民が節約しているからごみが減っているだけ、というようにとられてしまう。このことを文章の最初に持ってくるよりは、「環境意識の向上により減少」という内容を前に持ってくるほうが、市民のやる気、モチベーションが上がるのではないか。それ以外の内容は、報告書としてわかりやすく、ごみが減少しているのがわかるので、あとはやる気をこのまま継続していく方法さえわかれば良いのではないかと感じた。

○会長

市民が頑張ったというところもアピールしたいとのことだが、市の方で表現を考えることは可能か。

○事務局

持ち帰り、検討させていただく。

○委員

諮問の内容とは異なるが、4 ページの家庭ごみ排出実態調査の結果の中の、不燃ごみの組成割合について、「収集・処理工程における爆発・火災事故の原因とされる充電式電池は 0.7% 混入している」とある。豊中市では、2024 年の 10 月から、充電式電池内蔵の小型家電電池類の定期収集を行っているものの、私の知る範囲では残念ながらごみ収集車や廃棄物処理施設などでの爆発や出火というものがあまり減っていないと承知している。この点は全国的な問題として色々議論されており、この度、8 月 12 日に政府方針として、来年 4 月の再生資源の有効利用促進法の施行に合わせて、規定再資源化商品に 3 品目（モバイルバッテリー、携帯電話・スマートフォン、それから加熱式たばこ）の追加を決めたという報道があった。ただ、この法律では対象が製造事業者及び輸入事業者だけになっており、自主回収やリサイクル化を求めているが、上記 3 品目の追加、法制化だけで、処理施設等の発火件数の減少への抜本的な解決に本当につながるのかというように危惧している。市場に出回っているものの中には、100 円ショップなど色々なところで、充電式電池の内蔵された数多くのものが売られている。製造業者だけでなく、消費者や小売店等も一丸となって取り組んでいけるような、指導教育や、収集への協力要請といった取り組みを検討いただければと思っているが、市として、現在取り組みを考えているのであれば聞きたい。

○事務局

充電式電池内蔵の小型家電については、収集車の不燃ごみの中に入る割合は減っているので、収集車の発火事故というのは減少している。ただし残念ながら、クリーンランドの発火事故は、横ばい傾向になっており、発火件数が減っていないという現状である。8 月 12 日の報道を受けて、国から市の方へ通知があったわけではないが、市として国の方にも対策について要望等はしている。今後も引き続き、分別についての周知啓発に努めていきたい。

○委員

豊中市は環境分野において全国的にも先鞭をつけて活動を前に進めている実績があるので、こういった部分でも先行していったほしい。

○委員

フードドライブについて、豊中市は過去に消費者庁の食品ロス削減推進の大賞を受賞しているが、ホームペ

ージにも小さくしか掲載していないように思われる。こういったことも市民へ周知することで、市民も市も頑張って取り組みを行っているということをアピールしていただきたい。

○事務局

フードドライブの取り組みについて、新しい取り組みは今の所考えていない。しかしながら地域での取り組み等については今後も支援していく。またご指摘いただいた、市の取り組みについては、フードドライブにはかかわらず、評価していただいたことは、市民のみなさまに広く周知できるよう努めていきたい。

○会長

令和 6 年度のトピックス 4 点について皆様からの評価、コメントをいただきたい。
特になければ、全般のことについてご意見等いただきたい。

○委員

限られている紙面で見やすくわかりやすくしていると思うが、私は家でも NPO の活動でもコンポストを利用して、たい肥化をしているので、食品ごみだけでなくプラスチックごみが気になる。プラスチックごみについてはマイクロプラスチックの問題もあり、国際的にも同意がすごく難しかったという内容を以前新聞で読んだ。私たちの暮らしに密接している問題だけにそれを減らすというだけではない対策を考え、次世代の人たちにつなげていけるように、紙面のどこかに記載することはできないか。

○会長

マイクロプラスチックについて、報告書には特に記載はされていないが、これまでは健康被害がしっかり証明されていなかったところ、2024 年に国際ジャーナルに健康被害が出ているというような論文が 1 つ出てきているので、これからもしかしたら、（そういった報告が）増える可能性も十分に考えられる。マイクロプラスチックについてコメントいただきたい。

○委員

マイクロプラスチックについて、詳しいわけではないが、摂取量×危険性、暴露量×危険性というそれぞれの危険性で評価されるとなると、危険性はまだまだあまりよくわかってはいないが、現時点では何か急に危ないとか人体に影響が出るという段階ではないかと思う。ただ、やはり量がかなり増えているので、減らしていかなければならないというのが世界的に共通の認識なのかと思う。

○会長

報告書の中に記載するところがあつたらだが、そのあたりはいかがか。追記をお望みであればご意見をいただきたい。

○委員

すぐに報告書に記載してほしいわけではないが、私個人ではへちまを育ててスポンジとして使用していたりする。プラスチック製品でないとだめ、という事ではなく代替えの製品を使用するなど、気づいて、行動していけれ

ばと思っている。

○会長

プラスチックごみについて、減量だけではなく、発生抑制についても施策として進めていただきたいので追記をしていただけないか。

○事務局

マイクロプラスチックの健康被害についてごみ減量の分野でどこまで記載できるか難しいが、プラスチックごみが削減されることで、いい方向に向かう可能性もあるかと思う。直近では、ペットボトルの水平リサイクルでペットボトルからペットボトルにリサイクルする方法もあるが、まずごみを減らすにあたっては発生抑制が重要と考えるので、今回どこまで記載できるかは事務局で検討させていただく。今後人体も含めたいろんな影響があるところを念頭に置きながら周知啓発を行っていきたい。

○委員

令和 6 年度のトピックス②の「一般廃棄物管理者研修会を実施しました」の中で、106 名の方が参加、視聴回数 724 回と記載があるが、この数字にどんな意味があるのか捉えにくい。繰り返し見る必要があるものなのか、参加者、視聴回数が少ないのか多いのかといった事を知りたい。

○事務局

この研修会は今までは対面での研修としており、日時を指定して市内の約 300 の多量排出事業者を対象に実施し、参加者が 20 名程であった。より周知を効率的にしていくために令和 6 年度は試行的に YouTube を利用し Web で実施した。106 名という数字は、アンケートを回答していただいた数で、研修の限定した配信期間の中で、724 回の視聴回数であった。視聴者の内訳の詳細までは把握できていない。

○委員

改善で成果があったのであれば、そこを明記してはどうか。市民はこの報告書で研修会を知るので基準値があれば、改善しているということが良くわかると思う。

○会長

全体を通じて、廃棄物政策について、昨年度の豊中市の政策の評価やコメントをいただきたい。

○委員

先ほどのプラスチックごみについての意見は非常に大事だと思っており、我々プラスチックから便利さなど恩恵を受けている一方で、マイクロプラスチックの問題があるので、今後プラスチックとうまくつき合っていくか、使用後に自然界に流出させずにリサイクルしていくかということが大事だと思う。それを踏まえると、資料の 4 ページに家庭系ごみ排出実態調査の結果があるが、可燃ごみの組成割合の中にプラスチック容器包装は約 10%を含まれている。組成概要にも記載のとおり、プラスチック製容器包装として分別収集された分別収集適合物の約 1.5 倍の量に相当するということで、まだまだ可燃ごみの中に分別されずに燃やされているプラスチック製

容器包装が含まれている。これがもし仮にすべて分別することができれば、もっとリサイクル率が高くなると思うし、環境負荷も減ると思うので、ごみは減っているがまだまだリサイクルの推進というのは必要と感じている。

2.その他（案件なし）

○会長

全般を通して、改めてご意見がなければ、本日の審議会はこれにて閉会とする。

3.閉会

以上